

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委 員 長 鈴木 静男 副委員長 青山 晃子 委 員 柳 賢一 鈴木 雅子 三塩 菜摘 廣重 敦 佐藤 哲朗 畑尻 宣長 中根 武彦
視 察 日 時	令和5年5月18日（木）
視察先・概要	岩手県盛岡市 人口：284,138人 世帯数：132,883世帯 面積：886.47k㎡
視 察 項 目	もりおかm i r a i おでかけミーティングについて （通称「もりm i r a」）
視 察 概 要	1 これまでの経緯（議会報告会から「もりm i r a」へ） (1) 議会報告会について ・平成23年から議会改革として「議長・副議長選挙における所信表明会」「議会基本条例の制定」「議場のバリアフリー化」「議案の賛否の公表」に取り組んでおり、その一環として「議会報告会」を開催していた。 ・議会報告会は、議会運営委員会が企画運営し、盛岡市内32地区の福祉推進会を単位に、年間4～8地区で開催（平成24年～平成29年）していた。議員は公務外（1地区9人）で参加。街頭でのチラシ配布や市内施設へポスター掲示、広報もりおか、市議会だよりで開催を周知していた。なお、開催経費は公費で負担をしていた。 ・議員からの議会報告と、参加者からの意見、要望、提言に基づく意見交換という内容で実施していた。 ・良かった点として、「議会活動を市民に情報提供することができた」「市内32地区で開催し公平性を確保できた」「市民の生の声をきくことができた」点があげられる。 ・反省点として、「参加者の意見に、議員個人の考えを発言できない」「一方的な主張や議員への批判の場になる会場や逆に質問があまり出ない会場があった」「市長部局の業務に関する質問があると回答が後日になってしまう」「積極的に市民と議員が意見交換できる形での開催を求める声」があったことから、「対話型の議会報告会の必要性」がでてきた。 (2) 「もりm i r a」への移行について ・反省点を踏まえ、議会運営委員会で方向性の話し合いを実施した。 ・参加者を不特定多数から大学生へ、内容を議会報告と質疑から特定のテーマへ、方式を対面方式からグループワーク方式とする、学生との意見交換会（愛称：もりおかm i r a i おでかけミーティング）を実施することとした。

2 もりmiraについて

(1) 概要等

- ・未来をつくる存在である若者の地方行政への関心を高めてもらうため、様々な意見を聴取し政策提言につなげることを目的に開催
- ・議員（公務外）及び地元の大学生が参加者
- ・原則各大学の構内で実施（議員がおでかけする）
- ・ワールドカフェ形式（席替えをする井戸端会議）で開催
- ・5～6人単位とし、1開催で3ラウンドを実施。メンバーの組合せを変えるため、席替えを行う。
- ・事前に、議員のファシリテート能力向上を目的とした研修会を実施し、議員自らがワールドカフェ方式を体験
- ・テーマは各大学と調整のうえ決定
- ・大学との調整や備品準備など事前準備は事務局が行い、当日の運営は議員が中心に行い、事務局は運営を補助する。

(2) 開催実績について

ア 平成30年 2大学（岩手県立大学・盛岡大学）

テーマ「あなたが地域で大活躍するために」

ラウンド1 普段どのような活動をしていますか

ラウンド2 理想のボランティア・地域活動（県大）

あなたの住むまちの人が幸せに暮らすために必要なものは（盛大）

ラウンド3 理想の活動のためにしたいこと（県大）

地域活性化のためにすべきこと（盛大）

イ 令和4年 3大学（岩手県立大学・盛岡大学・岩手大学）

テーマ「盛岡市の20年後の未来」

ラウンド1 盛岡の「誇り」「残念」に思うことは

ラウンド2 盛岡のどんな未来を実現したいか

ラウンド3 20年後のありたい未来のため、議会と大学生で一緒に取り組みたいことは

(3) 意見交換会で寄せられた意見等の取扱い

- ・出された意見や提言等の概要は、グループ内で報告書を作成し、議会運営委員会を経て議長に提出
- ・議会運営委員会での協議結果を全議員に周知し、情報共有を図る
- ・議会だよりや市議会ホームページで意見等の概要を掲載

(4) 参加者の所感

ア 学生

- ・話す機会の少ない議員と話し合いができ、刺激となった
- ・次は他大学と合同での開催をしてもいいのではないか
- ・結論をまとめる必要がないため、活発的に話し合いができた

イ 議員

- ・議員は近づきにくいという学生の認識を払拭できた

	・ テーブルを囲み共通テーマの話合いが新鮮で有意義だった ・ 以前の議会報告会より、建設的で具体的な意見交換ができた 3 今後の課題 ・ 他大学との合同開催に向けた開催方法 ・ 改選年における開催 ・ 参加者が増える周知方法
所 感 ※視察しての感想や岡崎市への提言など	・ 以前の議会報告会は「議会言葉が難しくわかりにくい」との声もあり、対話型へ切り替えたとのこと。これは対面報告会に限らず、広報誌作成でも気を付けたい視点である。大学によって熱量に差があり、参加者集めに積極的な大学は、PRになる私立大学や包括連携協定を締結している大学であり、大学側にどうメリットを感じてもらうかが課題とのこと。参加者の声として「他大学の学生と意見交換をしたい」という前向きな意見もあり、合同開催についても検討している。議員のファシリテート能力の向上も目指し、市政調査会の臨時研修でワールドカフェ講習会を、講師を招いて実施している。現在、本市で企画中の意見交換会も、合同開催や年度での複数開催など、検討していく価値があると思う。 ・ 本市でも意見交換会をこれまで年に一度開催してきたが、複数開催の経験はなく、段取りなど参考になる点が数多くみられた。事前準備の中で、印象的なものとして、早稲田大学からファシリテーターを招き、事前に講習を受けた上で、意見交換会を実施しており、本市でも必要なことと考える。また、意見交換会の周知方法として、議員自身のフェイスブックなどSNSを積極的に活用し、学生集めをしていることも印象的であった。 ・ 議会報告会の開催については、情報提供や市民の声を聞くことができたというメリットはありつつも、一方的な議員への批判の場や市当局への質問に対しては回答が後日になることもあり、積極的に市民と議員が意見交換できる場を求める声があがり、現在の開催方法になったとのことである。参加者の感想としては議員と話す機会がないので刺激になったなど、本市と同様の意見が出されていた。本市で今後、高校生との懇談会をやるにあたりメンバーの入替え方式も参考になると思われる。本市では不特定多数を相手にした意見交換会を、かつて防災条例を作った時に実施したきりで、これも並行して行うべきと考える。また、基本的になぜこうした議会報告会や意見交換会を行うのかということは議会が決めた「議会基本条例」に則り実施するという議員の意識が必要だとも思った。 ・ 議会改革の一環で始まった、議会運営委員会の協議や計画による議会報告会の在り方を知り、議員個人による報告会でなく議会内で連携して報告会を設けることに対してチームワークを感じた。ワールドカフェを実施するだけでなく、早稲田大学からワールドカフェ開催のための研修も実施しており、効果的かつ交流ができる最善な形を模索している様子が好印象だった。本市においても、議会広報委員会による意見交換会など

が開催されているが、開催後の振り返りに注力し、次年度以降の改善や新たなアイデアの抽出、そして具体的な計画を確実に実行していくことでより効果的で持続的な活動に繋げていくことを形にしていきたい。

- ・まず、平成 24 年から 6 年間に渡り、議員が街頭でチラシ配布やポスターを市内施設に貼って回るなど地域に周知した上で、開催していた議会報告会の存在があることに感心した。そこから建設的なものへと形を変えてきた結果、学生との意見交換会として「もりm i r a」に至ったということであるが、地元学生の半数以上が卒業後外に出ていく、実施 3 大学のうち 2 大学は隣の滝沢市にあるということで、盛岡市の未来を語るには地元で居を構えたこれからの世代の人達の方がいいのではないかとの印象を受けた。ただ、先方に出向く、ワールドカフェ形式、議員も事前にファシリテートの能力を外部講師から学ぶ、といった点は本市で実施する場合には参考にしたい。
- ・盛岡市議会では従来から議会報告会を開催していたが、平成 30 年度から大学生を対象として、「もりm i r a」を開催している。ワールドカフェ方式とすることで、活発で建設的な話し合いができているとのことで、本市議会ですべて実施した市内 4 大学との意見交換会と同様に意義のある取組であり参考になるところがあった。大学生を対象とした場合には大学に限られていることや市外在住者が増えることなどの課題もあることから、本市議会では今年度から高校生を対象に意見交換会を開催することとしている。今後は、その時点の課題や目的を明確にして他市の取組も参考にし、市民にとって受け入れやすい方法を検討していく必要があると感じた。
- ・以前は、議会報告会を行っており、利点もあるが反省点を踏まえ、対話型の議会報告会の必要性を見出し、もりおかm i r a i おでかけミーティングへと発展させた。この開催形式にワールドカフェ形式をとられていること、また、重要となるファシリテート能力向上のための研修会を実施していることが、最も学ぶ点となった。やはり、どう意見を引き出すかが大事であり、短時間で核心に迫れるかが問われると思う。そういった点で、本市の意見交換会にもぜひ取り入れていくべき点だと感じた。
- ・盛岡市議会正副議長の所信の中に「議会報告会の開催」への表明があり、平成 24 年から平成 29 年まで、年間 4 ～ 8 地区（全体で 32 地区）で実施していたが、幾度の開催の結果、多くの反省点もあった。現在の意見交換会では、話し合いの結果発表としてまとめることはせずに、でた意見の発表とした。この手法は学生達に、負担を与えない最良の手段であると思う。意見のまとめは、グループ担当の議員が改めて報告書としてまとめ、議会運営委員会を経て議長に提出するとしていた。心配点として、盛岡市議会のような意見交換会を実施しようとすると、議員はさることながら議会事務局の作業が非常に多くなってしまうことが懸念される。若者の意見を聞くことも議員として大切な務めではあるが、議会や議会

	事務局の本来の業務の優先順序からして、どの程度内容を濃くするかは検討の余地があると思う。
委員長の総括	議会報告会での良かった点、反省点が確認できて大変参考になった。やはり、現状においては対話型の意見交換会形式の方が有効的な形ではと再認識できた。 今後実施する高校生との意見交換においては、ワールドカフェ形式を取り入れた形にできないか検討をしたいと感じた。 ファシリテート向上のために講師を招いてワールドカフェ形式の意見交換会研修会を開催したとのことで、本市議会としてもこれからの議員として必要な能力の一つであるの円滑な会議進行技能向上のために、議会研修会の案件として提案したいと思った。 意見交換会で寄せられた意見等の取扱いにおいても参考となった。参加者の所感においても学生、議員ともに有意義で建設的な意見が出ておりワールドカフェ形式の意見交換会の有効性が見られた。